



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

94.8.15 No.4045

敗戦49年を迎え

二度の侵略の銃をいなく

反戦闘争の高揚を勝ちとろう！

朝鮮侵略戦争阻止！

今日、八月十五日、四九回目の敗戦記念日を迎えた。

反戦平和を希求する全ての人民は、今また北朝鮮の「核疑惑」を理由とする、新たな朝鮮侵略戦争への動き―今日の状況を直視し、真の反戦反核闘争の高揚を勝ちとらなければならない。

村山自社連立政権は、発足以来、前政権の基本政策を継承し、社会党の理念さえ捨て去り、反動と戦争への道を突き進もうとしている。①自衛隊合憲、②日米安保体制堅持、③「日の丸・君が代」は国旗・国歌、④北朝鮮政策は不変、等々枚挙にいとまがない。

さらに八・六・九、ヒロシマ・ナガサキでの平和記念式典では、被爆者援護法の制定に触れないなど、国の戦争責任に基づいた国家保障問題さえ大幅に後退させている。

「大東亜共栄圏」の下に行なつたアジアへの侵略と大量虐殺、朝鮮人の強制連行・強制労働、従軍慰安婦、蹂躞を繰り返した侵略戦争の歴史を二度と繰り返してはならない。

いつか来た道を限りなく思わせる、「きな臭い」動きはだれもが感じているとおりである。

日露戦争の「英雄」東郷平八郎の小学校教科書への復活、大量のプルトニウム備蓄―高速増殖炉「もんじゅ」稼働、アジアへとシフトした日本の経済圏Ⅱ

「新大東亜共栄圏」建設、アジアへの鉄道貢献―運政審答申、「国際貢献」の美名による自衛隊の海外派兵、恐るべき事態が進行しているのだ。

われわれは、「二度と侵略の銃をとらない」ことを何度でも肝に命じなければならない。敗戦五〇年―日本国憲法発布五〇年を前にして、蠢く憲法改悪の動向は急ピッチで作り上げられようとしている。

小選挙区制を突破口として、保守二大政党へと雪崩をうって進む政治動向は、何よりも「内なる反動」をより強烈に生み出すものだ。

四九回目の敗戦記念日

反戦闘争の新基軸となろう！

敗戦四九年を迎えたこの日、思いも新たに、「交流センター」「反戦共同行動委」を中心とした勢力こそが、反戦闘争の新基軸となり、朝鮮・中国・アジア人民に応えなければならない。

「点呼」方法変更の根拠を明らかにしない千葉支社当局

稲毛海岸駅管理の三駅(稲毛海岸、検見川浜、千葉みなと)において、七月一四日から突如として実施されている「点呼」問題について、八月三日、団体交渉(申二六号)が行なわれた。

勤務の中間帯に、それも

販売業務に従事しながら

現在、三駅において行なわれている「点呼」とは、勤務の中間帯に(出勤時でも退庁時でもない)、売店の中で販売業務に従事しながら(接客中随時中断しながら)、「勤務確認」と必要な事項を伝達するというものである。(現場で点呼というのなら、店舗のカーテンぐらい閉めて行なうてはどうかと言うと、「お客様第一」だから店舗は開けて行なう。これは業務指示だと言うのだ)

さらに不可思議なのは、この「点呼」は、日曜・祝祭日には初めから実施しないと(作業ダイヤに組み込まれていない)、なんと平日についても担当助役が休みなどの場合は行なわないという、たいした代物なのだ。

少なくとも「点呼」と言うからには、連日的確に行うべきもののはずである。それさえ顧みず(日頃は「勤務の厳正」などと称しているが)、「点呼」は「各箇所タイムリーに執行している」「必要な情報量を伝える」という趣旨から、必ずしも

連日行なうとは限らない」と言うのだ。まったく開いた口も塞がらない。こんな「点呼」がこの社会で通用すると言うのか? 組合側からの指摘にも当局は返答に窮してしまい、「業務上の必要性から行なう」「お客様の流れを見ながら行なっている」ので特段の問題はない。「昼間帯で利用度も少なく可能だ」などと、そもそも明確に分けられるべき「点呼」と「業務従事」を区分しないという穴だらけの「点呼」方法を、今後も続けるというのである。

「点呼」方法変更の根拠を明らかにしない千葉支社当局

又、席上、当局はついに今回「点呼」方法を変更した根拠を一切明らかにしなかった。現場段階では、直接現場長に質問すると「担当助役に聞け」と言い、担当助役に聞けば「上から言われればやるしかない」という返答しか戻ってこないのだ。そして団体交渉の席上では「現場長の考えは聞いた」としながら、その根拠を問うと押し黙ったまま何も回答しないのである。全く驚くべき「官僚主義」と言わざるを得ない。

これが「人間尊重企業」ⅡJR千葉支社の実態なのだ。すべての前に労務政策ありき。このような体制こそ破砕しなければならぬ。